

※ヘブル 12:1

「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。」

※ピリピ 3:13-14

「兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。」

○イエスの弟子として従うとは：三つの特徴

1. _____ (35-37)

▶「ついて行った」(ギリ語：“ア”「一致/連結」+“ケレウソス”「道」=“アコルセオー”「_____」)

「一世紀の弟子や見習い、門下生は、文字通り教師の後を歩きながらその教えを学び、言葉と行動の両面から師の教えを吸収する者たちでした。」

※使徒 9:1-2

「さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。」

※使徒 19:23

「そのころ、この道のことから、ただならぬ騒動が持ち上がった。」

※使徒 22:4

「私はこの道を迫害し、男も女も縛って牢に投じ、死にまでも至らせたのです。」

※ルカ 14:25-33

「さて、大ぜいの群衆が、イエスといっしょに歩いていましたが、イエスは彼らのほうに向いて言われた。「わたしのもとの来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。塔を築こうとするとき、まずすわって、完成に十分な金があるかどうか、その費用を計算しない者が、あなたがたのうちひとりでもあるでしょうか。基礎を築いただけで完成できなかつたら、見ていた人はみな彼をあざ笑って、『この人は、建て始めはしたものの、完成できなかった』と言うでしょう。また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えようとするときは、二万人を引き連れて向かって来る敵を、一万人で迎え撃つことができるかどうかを、まずすわって、考えずにいられましょうか。もし見込みがなければ、敵がまだ遠くに離れている間に、使者を送って講和を求めましょう。そういうわけで、あなたがたはだれでも、自分の財産全部を捨てないでは、わたしの弟子になることはできません。」

「キリストは言います。『全てを私に差し出さなさい。あなたの時間やお金、働きの一部を求めているのではありません。私はあなた自身を求めています。私は元あなたを苦しめるために来たのではなく、それを殺すために来たのです。中途半端は何の意味もありません…元あなた自身の全てを明け渡しなさい。あなたが純真だと思ふ欲望も、邪悪だと思ふ欲望も全てです。その代わりに私が新しい自分を与えます。いや実際、私は私自身を与えます。私の意志があなたの意志となるのです。』」(『キリスト教の精髓』CS ルイス)

2. _____(38-39)

▶「いっしょにいた」

※ヨハネ 15:1-8

「わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。」

3. _____(40-42)

※ローマ 10:12-15

「ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」」